

【語意】

- ①別——本経から別れて表裏経に走るので、別という。絡と同義として、絡脈と呼ばれている。
- ②分間——分肉の間、分肉は白肉（皮下脂肪層）と赤肉（筋肉層）を合わせた言い方。
- ③太陰の経に並ぶ——太陰の脈に沿った形で循行する。
- ④直に掌中に入る——手掌に真直ぐ入る。
- ⑤散じて魚際に入る——散らばって魚際に入る意だが、魚際のところに散ずる（『現代語訳 黄帝内経靈枢』）とするものもある。
- ⑥半寸——原文は半寸だが、『太素』や『脈経』では1寸半とする。

手太陰之正＝経別，別行する正経

手太陰之正。別入淵腋。少陰之前。入走肺。散之大腸。上出缺盆。循喉嚨。復合陽明。此六合也。

（『靈枢』経別第十一）

【書き下し文】

手の太陰の正^①は、別れて淵腋^②、少陰^③の前に入り、入りて肺に走り、散^④じて大腸に之^⑤く。上は（もしくは上りて）缺盆^⑥に出で、喉嚨^⑦を循りて、復た陽明^⑧に合す。此れ、六合^⑨なり。

【語意】

- ①正——「××経之正」は本経から別かれた経脈であり、正経の別ルートであることを示している。経別と呼ばれる。
- ②淵腋——足少陽胆経。腋下3寸。
- ③少陰——この場合、心経の極泉穴を意味すると考えられている。
- ④散——肺に入って、散らばるの意味。
- ⑤之——この場合、ゆくという意味の動詞。
- ⑥缺盆——鎖骨上窩。
- ⑦喉嚨——咽喉部。
- ⑧陽明——手陽明大腸経。
- ⑨六合——陰経は表裏経の陽経に、陽経は本経に合流する。これを「経別の六合関係」という。